

混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

ほとけの 混和会だより

平成三十年十一月

東光院

仏の混和会

第137号

北総教区特別授戒会



己の慈愛心に目覚める

去る十月二十日(土曜)成田市寺台に於いて、授戒会が執り行われました。

この授戒会とは、仏様の戒めを授かり私達の心の奥に眠っている己の仏心、いわゆる、慈愛心に目覚める儀式で御座います。

この授戒に於いて目覚めた己の仏心、慈愛心によって、他の人々にも己と同じように幸を願い、他の人々の幸を喜びとする、この菩薩として生きる大いなる喜びを会得させていただきました。

この度の授戒会は会場の関係で参加人数に制限がもうけられ、東光院と致しましては皆様に参加頂きたかったのですが残念ながら役員さん五名の参加にとどめさせて頂きました。

戒名とか法名と言うと死後の名前と理解されている方が多いと思われませんが、本来この授戒によって仏道精進の誓いの元に授けられる名前が戒名であり法名で御座います。

よって戒名は生前中に、それも出来るだけ若い時に頂く事が最も望ましい事であります。

その授戒によって戒名を授かり御仏の弟子として、又菩薩として御仏の教えや行いをまねながら人々の幸を願う事を生きたる事の指針として、人生の道のりを明らかにするので御座います。

菩薩として生きると言う事は、己を忘れて人々に己の優しさを手向けると言う事です。

これは己自身が大きいなる喜び得る事が出来ます。よって菩薩行は人々の為にするのでは無く、己自身のためにやっている行為なので有りません。御礼も感謝も結果も求めない、ただ無心に行う善意の行為は、争いも厄も退けて結果的に「善因善果」幸運の吉祥を招き、その人の人徳として大いなる幸をもたらす事と成るので御座います。



テンダ・イタ・インチキ・センシ
天台大師智顛禪師

十一月十二日(月曜)
天台大師様の報恩法要が
印西市別所の地藏寺にて
執り行われました。

この法要は今から千四百年ほど前の十一月二十四日にお亡くなりになられた中国の天台大師様の追善法要で、日本各地の教区ごとに行われているの天台宗の一大行事であります。

天台大師様は中国に於いてのお釈迦様の生まれ変わりだと敬われ、お釈迦様の膨大な経典全てを讀破り整理されて法華経が最も尊いと言われ、法華経の教えの注釈から実践方法まで事細かくを説き示して下さったのであります。

天台宗の宗祖伝教大師様は中国に渡り天台大師様の教えを学び帰国の後、法華経の教えを中心とした総合的な仏教の道場として比叡山を開かれました。

よって天台大師様と伝教大師様は大変深い因縁の元に結ばれているのであります。

慈愛心会得のプロセス

天台大師様は「仏心」いわゆる慈愛心を会得の課程を事細かく説いて下さって居ります。

その方法は先ず「授戒」によって身を慎み仏道の志を抱きます。そして「縁覚」様々な出会いや苦しみの経験を否定的に受け止めるのでは無く全て肯定的に受け止めて「仏心」の会得につなげると言う事です。たとえば

- ① 己の過ちから生ずる苦しみ
- ② 足ることを忘れた不平不満
- ③ 理性や道徳心の欠如
- ④ 他を責め、己の正義を貪る
- ⑤ とらわれ、こだわり、執着
- ⑥ おごりや慢心した心

これらの要因によって生じた様々な迷いや苦しみの経験を無にしないように心静かに己を見つめてみるのです。すると様々な迷いは己の我を減することで解消し、この迷いは仏心会得の導きだったことが見えて参ります。よって心の浄化を図り自我没却に努める方法として「座禅」と言う形を明らかにし、己の我を減する事が出来れば自然に「仏心」慈愛心が芽生ると説いて下さっております。

亮観拜

これのために
身口意
身を
業縛とる



他人のために
身口意
身を
慈悲とる



日本仏教に登場する仏様を、毎号少しずつご紹介。今回は菩薩部の虚空蔵菩薩を紹介します。

● 菩薩部 虚空蔵菩薩

虚空蔵とは、宇宙が無限に広がり全ての物を有しているように、限り無い智慧と慈悲を貯蔵庫のように秘めている。と言う意味で、人々の願いや助けなど必要に応じて心の蔵から取り出し、その時必要な智慧・知識そしてそれら多くのことを覚えるための記憶力を与えてくださる仏様です。

そのため、「十三参り」という子供が数え年で十三才になったとき、虚空蔵菩薩をお祀りする寺院にお参りし、智慧や記憶力と言った福徳を授かるという風習もあり、関西方面で盛んに行われていると聞きます。

また、虚空蔵菩薩から知識や記憶力を授かりたいと願うのは大人も同じで、八世紀ごろに「虚空蔵求聞持法」という修行が生まれました。

この修行は、決められた手法を持つて虚空蔵菩薩の真言

「オン・バサラアラタナ・オンタラ・ソワカ」と百万遍唱える事で、虚空蔵菩薩の持つ無限の記憶力と仏の智慧を授かることが出来ると言われている

ます。

真言宗を開かれた弘法大師空海は、かつて四国の室戸岬にある洞窟に籠もりこの修行を行い、百日間虚空蔵菩薩の真言を唱えたと言われているとされます。そしてこの修行を成し遂げた時には、空に輝く明けの明星が空海めがけて飛来し、その光は空海の口の中に入っていったと言う伝説が残されており、その功德からか、ご存じの通り空海は日本仏教を築き上げた天才の一人として名を残しております。

：私もこの修行をしたら少しは頭が良くなりますかね(笑)

おまけ

多くの神仏にはお使いする動物がいる事が多いのですが、虚空蔵菩薩の場合「ウナギ」が使いと為られています。その謂われについてはっきり為れて無いのですが、鰻と虚空蔵菩薩が川辺の災いから人々を助けたというような伝説が日本各地に残されており、そのことから一部の地域の人々は今でも鰻は口にしないそうです。

亮澄拝



上野国立博物館蔵 国宝虚空蔵菩薩像

秋も深まり



秋も深まり、紅葉が美しくなる一方、朝晩の冷え込みが厳しい季節となつて参りました。皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

秋彼岸法要が行われましたが

去る九月二十一日、平成霊園ならびに東光院本堂において秋彼岸法要が行われました。毎回お参り頂いている方のお顔を見ると、どこか安心な気持ちにさせていただけました。今回もお参りありがとうございました。

七五三の季節に

法助先の深大寺では七五三のピークが過ぎ、大勢のお子さまとご家族がお参りに見えました。中国のことわざで「一年の計は穀を樹(う)うるに如(し)くは莫(な)し、十年の計は木を樹うるに如くは莫し、終身の計は人を樹うるに如くは莫し」というものがあります。一年の計画を立てる人は穀物の種をまき、

十年先を考える人は木を植えて、一生を思う人は人を育てるといふものです。親御さんに連れられてお参りに来たこの子たちが、やがて成長しそれぞれの人生で活躍してゆくのだと思うとどこか感慨深いものがあります。お大師様に見守られて健やかに育っていくことを毎度祈念致しております。

今年のお蕎麦は...



今年のお蕎麦は、度重なる台風により壊滅的な被害を受けてしまいました。しかし、横尾きみさんらのお力添えをいただき、なんとか来年度の種は収穫することができました。今年の秋は大きな台風が多く、そばの他に野菜や樹木にも被害が生じてしまいました。猛暑であった夏も含め、異常気象が特別なものではなく例年の事となるのではと不安な気持ちを抱く次第です。(写真 台風後の蕎麦と深大寺大師堂に倒れるヒマラヤスギ) 亮敬拝

